

# 文保百首

詠百首和歌

夏

忠房

伊勢の海のきよき渚の蛍こそ

よはをもてらす玉とみえけれ

春日同詠百首応製和歌

夏十五首

従一位臣藤原朝臣道平上

沢水はみ草がくれに見えねども

蛍の影のうつるにぞしる

秋日同詠百首応製和歌

夏十五首

太政大臣従一位臣藤原朝臣実重上

袖につつむ蛍のみかはあきらけき

君の光も身にぞあまれる

詠百首和歌

夏

空性

明がたの月の窓にぞしらみゆく  
蛍の光ともし火のかげ

夏日侍太上皇仙洞詠百首応製和歌

夏十五首

従一位行内大臣臣源朝臣有房上

ほたるかとみゆるともしにおどろかで  
しかも思ひに身をやかふらん

夏日同詠百首応製和歌

夏十五首

正二位臣藤原朝臣為世上

もえあかす思ひの色をよるごとくに  
誰にみよとて蛍とぶらん

春日同詠百首心製倭歌

正三位行左京大夫臣藤原朝臣実任上

夏十五首

あつめこしまどを忘れぬ蛭かな

まなぶる程はなれぞしるらん

秋日詠百心製和歌

従二位行侍従臣藤原朝臣隆教上

夏十五首

ほたるとぶいかほの沼のいかばかり

たえぬ思ひをよそにみすらん

秋日侍仙洞同詠百首心製和歌

住吉神主従四位上行撰津守臣津臣宿禰国冬上

夏

蛭とぶおぼろの清水かすかにも

しらばやおのがもゆるこころを

詠百首和歌

夏十五首

大僧正道順上

くもるよのほたるの影につゆみえて

雨にすずしき庭の夏草

「国歌大観」より